

東播センター合唱団機関誌

第20号 2003年12月5日

発行 東播センター合唱団 機関誌部



2003年日本のおたごえ祭典参加(11月14、15、16日)

「えらいこっちゃ！明日本番だと言うのに声がでない！どないしょう」

日頃から、家族のみんなには「一番目に風邪をひいたら、罰金だ！」と、やかましく言っている本人が……。

月曜日、休暇をとるための追い込みで、休日出勤。何か悪い予感の「11月の雨」。

「寒いなあ！着重ねしたいが仕事着の余分がない、仕方がない、気を張ってがんばろう。」

でも前日、散髪したのを忘れていた。

水曜日になって、もしや本番あたり、声がでなくなるのではないかとの不安。通勤の車で「遠い日の歌」のテープで歌ってみる。のどは少し痛いですが歌える。一日の仕事での会話で、のどへの負担を感じながら、だんだんと不安が現実にも近づいてくるのを感じる。帰ってから地元の自治会の行事では極力声を出すのを控える。そして木曜日、明日会社を休むための準備でPM8:00まで、どこまでもまん悪く、騒音の中での必死の会話で、のどを酷使することに。(ああ、もうだめだ、なんと言うことだ) 帰宅の車で腹をきめた

「西本さん、竹川さん、富田さん、そして期待してもらっている団の皆さんごめんなさい。……」「歌えないなら、もう長野へは行きたくない。」と西本さんへ。

「せっかく行くと決めたから、3人で

歌えなくても体さえ大丈夫なら、行ったら」と竹川さんの一言で、「それじゃ行こう。」

今回の長野行きは“日本のおたごえ祭典”のすごさ！パワーをおもい知らされました。

さまざまな人が、今日のこの瞬間に歌うことのよろこびがあふれているのが伝わってきました。全ての人が今日の日のために、この祭典を楽しみに来ているのが良くわかります。

知的障害者が思いっきり自己表現。自



分の子供やら、地元の障害者施設の人たちのさまとラップし、おもわず目頭が熱くなってくる。会場がひとつの輪になって溶け合う中で、私ひとりがおいしそうなご馳走やお酒を目の前にとめられ、ひたすらじっとがまん。両横の見知らぬ人と肩を組み、歌う真似。(本当は私だって歌えるんだぞう!)これは今回の責任へのお仕置き。

でも、いいこともいっぱいありました。初日と、3日目のコンサートはすばらしかったし、2日目の白馬3山(白馬、五龍、鹿島槍)1万尺の雪景色。そしてなにより、全国大会のレベルと、ここで歌うには何が必要か、十分勉強させていただきました。きっと、明日につながるでしょう。(テナー:岸本)



うたごえ喫茶 (11月8日)

喫茶あしたばで行われるうたごえ喫茶、もうお馴染みとなってきました。今回はほとんど身内だけの参加となって、ややさみしいけれど、団員の子供達2人も参加してにぎやかに開かれました。長野で歌う予定であったタカサゴヤーズの歌も披露。司会は西本の歌も披露。司会は西本

団長と、途中から常峰・中矢のコンビにバトンタッチ。いつもの和やかな雰囲気でした。

加古川市合唱祭 楽しく歌えたね(11月23日)

恒例の加古川市の合唱祭、11月23日、ウェルネスパークのアラベスクホールにて開催されました。東播センターは13名で参加、今回は「ひとつの朝」、「みんなの歌」の2曲。指揮者のない演奏でどこまで歌えるか不安でしたが、終わってみると、楽しく歌えて気分も最高でした。演奏としては、ソプラノの人数6人に対し、テナー1人、アルト2人と、少しバランスが悪かった気がします。団員の確保が、これからの課題でしょうか。

今後の行事予定

- 12月 7日(日) 東加古川公民館 バザー
- 12月 14日(日) 東加古川公民館 清掃作業
- 12月 26日(金) 忘年会(岡本カメラ第2スタジオ)
- 2004年
- 2月 22日(日) 東播センター合唱団ミニコンサート(松風ギャラリー)

12月練習日

合唱 12月5日、12日、19日(26日は忘年会)

たい。一か月でし
歌えました。し
はまた集って日
まました。中
歌詞も忘れた
歌は、忘れた
時、忘れた
の金曜日の
合唱祭の練習
合奏の練習日
し。だ。い。旅
慌ただしい
翌日仕事
に帰る。仕事
終った。祭典
3日間。祭典
った。祭典
楽しめたい。か
でもう少し長
高し。長野
の記事。岸本
え祭典も。本
ち祭典も。本
か祭典も。本
温泉も。あ。ち
白馬も。あ。ち
日食も。あ。ち
はよい。あ。ち
余文録